

いのちの言の葉2010

富山県教育委員会 平成 22 年度いのちの教育総合支援事業

「いのち輝かせて」 (総合的な学習の時間)

氷見市立朝日丘小学校 5 学年児童
平成 22 年 12 月 7 日実施

【いのちの先生】

太田 友恵 先生
・世界移植者スポーツ神戸大会
競泳競技 金メダリスト

【授業の概要】

- 1 担任の話
- 2 「いのちの先生」の話

(1) 病気について

○劇症肝炎は、適切な治療を行わないと、ほぼ 100%の確率で死に至る。治療を行っても、およそ 30%程度の生存率である。病気の進行に伴い、身体的にも精神的にもつらかった。

(2) 周囲の支え

○生体肝移植でしか助からないと診断された時に、家族のみんなが肝臓の提供を申し出てくれた。弟さんから肝臓が提供されることになった。16 時間の大手術、拒絶反応の症状やさらに 9 か月後の再手術と大変な状況が続いたが、家族や医師、看護師の方々の献身的な医療と看護によって一命を取り留めることができた。
○自分のいのちが、周囲の支えによって生かされたことに、言葉では言い尽くせない感謝の念を抱いた。

(3) いのちの輝き

○病気にかかる前も、水泳に対して努力はしてきたつもりであったが、本当にそうだったのかと、ふり返るといつも練習から逃げ出したいと考えている自分の姿があった。せつかく助かったいのちを生かすため、もう一度水泳に真剣に取り組んでみようと思い、練習に励んだ。
○「世界移植者スポーツ大会水泳競技」が行われると聞き、同じ臓器移植者の人や不治の病にあるといわれる人たちを勇気づけたいと思い、参加を決めた。

(4) 伝えたいこと

○これからの人生の中で、壁にぶつかる時が来るかもしれない。その時に失敗を恐れてあきらめてしまったら、それで終わりである。一番大切なことは、やってみることであり、やってみないと何も起こらない。失敗したとしても、やらないで終わる人の何倍もすてきなことである。つらいことがあっても、決してくじけないでがんばってほしい。

児童の感想 (5 学年児童)

私は家族のみんなにいつも口やかましく言われるのがいやで、反発して悪口を言っています。太田さんの話を聞いて、家族がいろいろ言うのは、私のことを思っていることなのだと改めて考えさせられました。苦しいときや悲しいとき、いつも支えてくれるのは家族です。だから、これからはもっと家族に感謝していこうと思いました。

児童の感想 (5 学年児童)

「人は変わる」ということを学びました。太田さんは昔は内向的な性格だったそうですが、今の太田さんはとてもすてきな方だと思いました。また、自分の思ったことを正直に話される方だと思いました。ぼくは今、野球をやっている、かべに突き当たっています。太田さんが言われたことを思い出して、これからも野球をがんばろうと思います。

児童の感想 (5 学年児童)

一番心に残ったことは、家族が助かると信じ、友恵さんを支え、弟さんが肝臓を提供したことです。家族のきずなの強さがとても印象に残りました。いつも当たり前で思っている自分の家族が、大切に、ほこらしく思えるようになりました。これからはかけがえのない家族を大事にしていきたいです。